

## 令和2年度連続講演会

# 「幕末再考 —変革への計と践」



聴講  
無料

教科書で習う大事件や有名な人物などを中心とした“幕末のイメージ”を持っている方も多いと思われます。しかし、実際には、多様な人たちの考え方や動き、様々な出来事が積み重なる過程を経て、歴史が動いたのではないでしょうか。

本年度で3回目となる「連続講演会」では、激動の幕末期を動かしていった人や組織、人材、考え方などを通して、「幕末」という時代を改めて考えてみます。

第1回 6月27日土 当館学芸員 高山 嘉明

## 幕末の朝幕関係 —特に朝廷の視点から—

第2回 8月29日土 佐賀県立佐賀城本丸歴史館学芸員 藤井 祐介 氏

## 幕末佐賀藩の近代化と鍋島直正

第3回 10月24日土 佐川町立青山文庫学芸員 藤田 有紀 氏

## “志士最後の生き証人”田中光顕の功績

第4回 12月12日土 公益財団法人毛利報公会毛利博物館顧問 小山 良昌 氏

## 毛利敬親の藩政改革

第5回 令和3年 2月27日土 国立歴史民俗博物館名誉教授 高橋 敏 氏

## 幕臣小栗上野介のビジョン

場所／高知県立坂本龍馬記念館 新館ホール

時間／各回ともに 13:30~15:30頃(質疑応答含む)※開場13:00

対象／一般(概ね高校生以上)

定員／各回ともに先着 50名(状況により、定員は変動する可能性があります)

申込方法／高知県立坂本龍馬記念館までお電話・メール・FAXでお申し込みください。

FAX・メールの場合は「お名前・ご住所・お電話番号」をお書きください。

メールの場合は件名に「連続講演会聴講希望」とお書きください。

\*新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、変更、中止などを行う場合がありますので、予めご了承ください。なお、その場合は当館ホームページでお知らせいたします。

★講演会を聴講される方には、無料観覧券を進呈いたします。当日受付でお申し出ください。

★当日は当館駐車場が混み合う可能性があります。当館駐車場が満車の場合は、桂浜公園駐車場(有料)をご利用ください。(桂浜公園駐車場から当館までの無料送迎タクシーを実施する場合もあります。詳しくはお問合せください。)



主催・問い合わせ先

高知県立坂本龍馬記念館(公益財団法人高知県文化財団)

〒781-0262 高知県高知市浦戸城山830 TEL(088)841-0001 FAX(088)841-0015  
ホームページ https://ryoma-kinenkan.jp メール ryoma@ryoma-kinenkan.jp

高知県立坂本龍馬記念館  
The Sakamoto Ryoma Memorial Museum

高知県立坂本龍馬記念館

検索

# 講演内容及び講師紹介

## 第1回 6月27日 暮末の朝幕関係 -特に朝廷の視点から-



当館学芸員

### 高山 嘉明

講師からのメッセージ

幕末政治が難しいと言われる要因のひとつに、朝廷(天皇)の存在があるのではないかでしょうか。幕末、朝廷は何をきっかけに、どのような経緯で政治浮上をみせたのか。その結果、朝廷自身は幕府とどのような関係を築こうとしたのか。倒幕・王政復古という結末を知る私たちは、両者の対立関係を想起しがちですが、実はそうではない面も多くありました。朝廷と幕府のいわゆるパワーバランスの問題を軸に、藩や志士の活躍の前提となる「公儀」(公権力)論について考えたいと思います。

#### プロフィール

昭和55年(1980)福岡県生まれ。龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程修了。龍谷大学非常勤講師等を経て、平成29年(2017)より現職。専門は朝廷をめぐる幕末政治史。論文に「幕末期学習院をめぐる政治動向」(『日本歴史』2008年)、「萩藩主・世子の自称と幕末政局」(『龍谷史壇』2014年)、「幕末期土佐藩の清和院門警衛について」(『高知県立坂本龍馬記念館研究紀要』2019年)等。

## 第2回 8月29日 暮末佐賀藩の近代化と鍋島直正



佐賀県立佐賀城本丸歴史館学芸員

### 藤井 祐介 氏

講師からのメッセージ

土佐藩とともに「薩長土肥」に名を連ねた佐賀藩。実は、“近代化のトップランナー”ともいえる存在でした。10代藩主鍋島直正是アヘン戦争に衝撃を受け、軍役である長崎警備の強化に邁進。日本で初めて鉄製大砲鋳造と蒸気船建造を成し遂げました。その背景には、専門部局を編成しての人材登用や、近代的海軍を創設し欧米列強に対峙するという直正の一貫した“国防”意識がありました。教科書では語られない幕末佐賀藩の存在感を、今回の講演から感じていただければと思います。

#### プロフィール

昭和57年(1982)福岡県福岡市生まれ。九州大学大学院比較社会文化学府博士後期課程単位修得退学。柳川古文書館学芸員嘱託等を経て、平成24年(2012)4月佐賀県立博物館に着任。平成27年(2015)4月から現職。専門は日本近世史。講演に関連する論文として、「佐賀藩の長崎警備強化にみる幕藩関係－鍋島直正と阿部正弘・江川英龍の関係から－」(『佐賀県立佐賀城本丸歴史館研究紀要』第13号、2018年)がある。

## 第3回 10月24日 “志士最後の生き証人”田中光顕の功績



佐川町立青山文庫学芸員

### 藤田 有紀 氏

講師からのメッセージ

坂本龍馬や中岡慎太郎など、あまりにも有名すぎる歴史上人物が多い土佐では、あまり注目されない田中光顕ですが、幕末維新期の時代そのものを残そうとした、“志士最後の生き証人”でもあります。

土佐から長州、京都へと移り、幕末の激動期を生き抜いた志士・田中光顕の行動を追いながら、田中が何を考え、どのような功績をあげていったのか、田中を志士へと走らせた当時の土佐国内の状況をふまえてご紹介します。

#### プロフィール

昭和48年(1973)高知県生まれ。高知大学人文学部人文学科卒業。土佐山内家宝物資料館で学芸員として勤務後、平成22年(2010)から佐川町立青山文庫に勤務。

## 第4回 12月12日 毛利敬親の藩政改革



公益財団法人毛利報公会毛利博物館顧問

### 小山 良昌 氏

講師からのメッセージ

毛利敬親は、世上暗愚な殿様のイメージで語られます。しかし、藩主としての実像は、財政再建、文武の奨励を進め、朝廷の藩屏として積極的に西洋銃陣を採用し、早くから藩士を銃陣習練に参加させ、不足する兵員は奇兵隊など農工商人が結成した諸隊を容認し、特訓して強力な藩兵を作り上げました。その結果、戊辰戦争では英國公使館付外科医ウイリアム・ウイリスが「長州兵はもっと訓練の行き届いた一番強固な軍勢で、誰もが称賛を惜しまない」と称賛する活躍をし、明治維新を成し遂げました。その藩主敬親の活躍の状況を紹介します。

#### プロフィール

山口県周南市出身。山口県文書館、県立山口博物館学芸課長、山口県史編纂室、萩国際大学教授、毛利博物館館長を経て、現在は同館顧問。また、山口県地方史学会名誉会長を務めている。毛利氏関係著書などを専門的に研究し、著書に『名君・毛利敬親』『明治維新後の毛利家』『毛利博物館名品50選』『吉田松陰とゆかりの人々』『毛利家と茶道』『吉田松陰門下生・毛利敬親』『公爵毛利家時代の写真群』『長州藩と会津藩』など多数。

## 第5回 令和3年 2月27日 暮臣小栗上野介のビジョン



国立歴史民俗博物館名誉教授

### 高橋 敏 氏

講師からのメッセージ

歴史は得てして勝者の歴史となり、敗者の歴史は歪められ、抹消される憂き目に遭ってきました。志半ばにして暗殺された坂本龍馬の維新は高知県民挙げての熱意によって記念館が創設され、見事に実証、顕彰されています。他方、敗者の維新は史料が散逸、排除され、長く埋もれたままでありました。そろそろ敗者の維新に耳を傾けるときかもしれません。龍馬に遅れること半年、朝敵の汚名を着せられ、斬首・抹殺された幕臣小栗上野介忠順の維新を模索してみたい。

#### プロフィール

昭和15年(1940)静岡県下田市生まれ。東京教育大学大学院修士課程修了。静岡県教員の後、群馬大学教育学部教授を経て国立歴史民俗博物館教授。同名誉教授。文学博士。フィールドワーク主体の地域史研究から民衆教育史、生活文化史、社会史、民俗史、博徒史等テーマは多岐に及ぶ。近年は正史から排除された敗者、アウトローの稗史を摸索してきた。著書『日本民衆教育史研究』(未来社、1978年)『国定忠治』(岩波新書、2000年)『博徒の幕末維新』(ちくま新書、2004年)『清水次郎長一幕末維新と博徒の世界』(岩波新書、2010年)『小栗上野介忠順と幕末維新ー「小栗日記」を読む』(岩波書店、2013年)他多数。